

温暖化防止ながれやまだより

第5号

平成24年6月号

温暖化防止ながれやま 会報

代表 平手 彰

流山市こうのす台 629-46

編集 石垣 幸子

安心・安全・省エネの地産地消の啓発

温暖化防止ながれやま

代表 平手 彰



温暖化防止ながれやまは、昨年9月に設立満10周年を経過しました。

千葉県地球温暖化防止活動推進員が中心となって設立された本会は「地球温暖化の防止」というグローバルかつ公益的な環境問題に対し、

市民として足元からできる防止策を推進しています。目に見えないCO₂（二酸化炭素）の削減啓発を中心事業に据え活動しています。

昨年6月に当会が千葉県環境功労者として森田健作知事から表彰を受けるまでの評価を得たことは、当会の活動に対する流山市環境政策課、関係諸組織、諸団体のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、3・11東日本大震災とこれに起因する福島第1原発事故は、世の中のパラダイムを大きく変える起点となり、温暖化防止ながれやまとしてもこの新しいパラダイムの中での立ち位置を確認すべき時が来たと言えます。

とりわけ市内の放射能物質除染作業は、長年にわたり最大、最優先の環境問題であり、環境市民団体の雄として無関心では済まされないで

しょう。放射能汚染と原子力発電所の今後、エネルギーの需要の見直し、エネルギー構成の見直し等の最新情報を収集し、一層の知見を進め、再生エネルギー利用促進のための啓発事業と市民ができる省エネ、節電の実施は社会からの期待でもあり、温暖化防止ながれやまとしてその期待に応えていきたいと思えます。

<今年度の活動方針>

1、市民環境講座

- ・省エネと節電及び再生可能エネルギー特に太陽光発電の正しい普及啓発
- ・安心・安全・省エネの地産地消の啓発

2、出前環境講座

- ・省エネと節電で光熱費はどれだけ削減できるかを分り易く説明する。
- ・小学校へのアプローチ・開拓

3、省エネ市民会議

- ・広報を通じて参加者を広げる

4、流山市地球温暖化防止地域協議会

- ・情報の共有と提言
- ・協働事業の模索

省エネ市民会議について

事務局長 春田育男

省エネ市民会議は、毎月第2金曜日／流山市生涯学習センター(原則)で開催されています。環境に関心のある方であればどなたでも自由に参加できます。(参加費：無料)

この省エネ市民会議は、平成19年7月に当会が各家庭で省エネを推進していただくとう省エネに関心のある市民の方々にエコワット(簡易電力量測定器)を貸与したことに始まります。

同年8月、貸与を受けた方々(10名)が集まり「エコワット会議」として発足しました。第1回目は、エコワットの使い方講習会でした。以降は、各家庭でエコワットを使った結果の発表・検討会や、電気料金の仕組み、電気入門(電圧、電流、電力、電力量、ヒートポンプ、エコキュート、太陽光発電・・・)などの勉強会となりました。

平成20年7月には冷蔵庫の消費電力量がエコワットで測定した値とメーカー表示の数値との乖離に気が付き関係先に問い合わせた結果、意外なことが分かりました。平成18年5月以前に製造された冷蔵庫は一般家庭で使われる状態(物を出し入れする為に扉を頻繁に開閉する・・・)で試験されていないので消費電力量



第1回エコワット会議(平成19年8月)

は少なめに表示されていた。また、エコワットにも性能の不都合があることが分かりメーカーと激論を交わし、その結果、(株)エネゲートのホームページに「旧モデル(T3T-R1:写真)については、冷蔵庫等インバータ内臓機器の場合、過大に表示されることがあります」の表記がされるようになりました。



以後、エコワットに不信感を抱き、平成21年2月より「エコワット会議」を「省エネ市民会議」と改めました。会議では、自らの世帯が排出しているCO2を把握しようと各家庭の環境家計簿を持ち寄り、電気編、ガス編、水道編、ガソリン編などについて検討しました。江戸川大学の伊藤教授から「気温と電力消費量の関係」などが発表されました。「EOR(原油増進回収方法)」「住まいの省エネ」「太陽熱温水器」「次世代環境交通システム」などは専門家の方々から話を聞きました。京和ガス(株)の施設見学会も開催されました。

平成24年に入り「わが家のエコリフォーム」(1月)、「内窓の自作」(2月)、「野田エコライフ推進の会」(3月)、「ながれやまエコ活動エコポイント」(4月)、「環境未来都市」(5月)などについて紹介されました。



「内窓の自作」(2月)



「野田エコライフ推進の会」(3月)



「環境未来都市」(5月)

第1回市民環境講座



2012年5月13日（日）流山市生涯学習センターに於いて、青木更吉氏による市民環境講座「江戸川

は流山に何をもたらしたか」が開催された。

今、温暖化による気象条件の変化は、世界各地の水の環境に大きな問題を引き起こしている。日本でも最近では、集中豪雨による土砂崩れの多発が問題となっている。

流山には、常に江戸川が付かず離れずに流れている。この川の恵みは、かつての流山の繁栄をもたらし、水とみどり豊かな流山を形成している。『みりんの香る街・流山』の著者、青木更吉氏に江戸川に対する熱い思いを語っていただいた。

江戸川は人口の川である。もともと庄内古川、太日川と呼ばれる大きく蛇行し、流れの定まらない川であった。徳川家康の利根川を東に追いやる、いわゆる東遷工事により整備された川である。

縄文時代、江戸川あたりの低地は縄文海進と呼ばれる海であった。その海からの恵み、流山には貝塚がたくさん見つかっています。奈良、平安時代、水の豊かな低地部では早場米の地になっていったのではないだろうか。

江戸時代、江戸川の開削で、村が二分されてしまったところもあったが、江戸時代にはたくさん渡しがあり、川を挟んだ交流が盛んになっていった。醸造家が移住してくる。コメが来る。そして流山に醸造業盛んになり、みりんへと発展し、江戸川の水運によって流山のみりんは江戸で大評判となっていった。水運とともに河岸でき、米の集散地となり、船の船頭さんや船大工が住居し、流山の街も活気であふれた。そして、買い物にやってくる、諏訪神社詣でにくる、お針子さんが通ってくる、田植えや稲刈りの日雇いなどなど川を挟んだ交流は盛んであった。対岸の三郷あたりは森がない、田んぼばかりであった。流山に来ると森があり、薪や木材も取りに来たという。流山の歴史をたどると、江戸川の豊かな水の恵みを受けて繁栄してきた。流山の母なる川、江戸川は今も流山の傍を付かず離れず、ゆったりと流れている。世界中では水の環境が大きな問題となっている現在、改めてこの川の重要性を見直し、これからこの川とどのようにかかわっていくのが課題である。

アトラクション 環境ビンゴゲーム

このゲームは16個の窓があり、窓には省エネ家電や照明、緑のカーテンなどと書かれている。映像に出たら、その窓を開ける。窓を一つずつ開き、早く縦、横、斜めのどれかに並んだ人が【ビンゴ!】窓が開くたびに省エネの説明があり、歓声とため息の中、いつの間にか省エネは納得。青木氏の著書などの賞品を受け取った。



映画と講演会

地球にやさしい生活

平成 24 年 3 月 25 日（日）、生涯学習センターに於いて「映画と講演会」が開催された。

第1部:講演

「温暖化すると気象災害は増えるのだろうか」

気象大学校 講師 山崎信雄氏

この冬は寒かった。温暖化が進んでいるというが本当だろうか？ みんながそう感じただろう。しかし、世界の陸の平均気温の年変化を見ると、ほぼすべての陸地において気温の上昇がみられる。北極、南極の海水面積の変化と気温上昇、積雪、凍土の減少、氷河、氷床の減少、海面水位の上昇等、これらの現象に対して学者は、温暖化はもはや疑う余地がないと発表している。

地球上にはもともと温室効果ガスと呼ばれる二酸化炭素、メタン、水蒸気があり、そのガスによって人類などが生活するのに丁度よい気温が保たれている。約一万年前から 18 世紀まではほとんど変化しなかった二酸化炭素が急激に増加している。これは人間の活動によるものと見られ、そして、20 世紀後半から自然現象では説明できない気温の上昇が増加し、低温現象は減少している。また気象の変化で、大雨が増加、集中豪雨の襲来が増えている一方、深刻な干ばつ地帯が増加している。

現在、気象学会としては、あすの気温は 1℃の精度では予想できないが、100 年先の温度は 1℃の精度で予想できる。100 年後の熱波の頻度、非常に強い台風襲来（発生は減少するが）などを予想している。

今、何もしな



いと大変なことになる。個人個人が温暖化に関心を持つことが重要である。

第2部:映画「地球にやさしい生活」

2006 年 11 月、作家のコリン・ビーヴァン、

妻のミシェル、そして 2 歳の娘イザベラは“地球にやさしい”生活を始めた。かつてコリン一家は SUV



車を取り返し、ファーストフード&買い物好きの典型的ニューヨーカーであった。ニューヨークの 5 番街に住みながら、ごみなし、電気なし、車なし、テレビなし、そして、1 年間は何も買わないという生活を家族とともに実行することになった。禁止だらけの生活はすぐに妻の負担となり、ちょっとしたイザコザにも爆発してしまう。

夏が来た。冷蔵庫なし、エアコンなしの生活、生ゴミ用のミズ飼育箱からはハエがうるさい。やがて秋、コリン夫妻はこの「地球にやさしい生活」を次第にエンジョイするようになっていった。自転車通勤も好きになった。

そしてこのプロジェクトが終わった時。コリン一家の絆は……

環境や地球への自分たちの与える影響を極限まで減らした末に発見した「本当に大切なもの」とは？

編集後記

風力や太陽光など再生可能エネルギーで作られた電気を電力会社がすべてを固定価格で買い取る制度 (FIT) が 7 月 1 日から始まるという。これから、本格的な夏がやってくる。燦々と降り注ぐ太陽の光、もったいないと思う。 石垣 幸子